



---

地域コーディネーター養成講座  
ぎのわん地域づくり塾2016  
(実施概要)

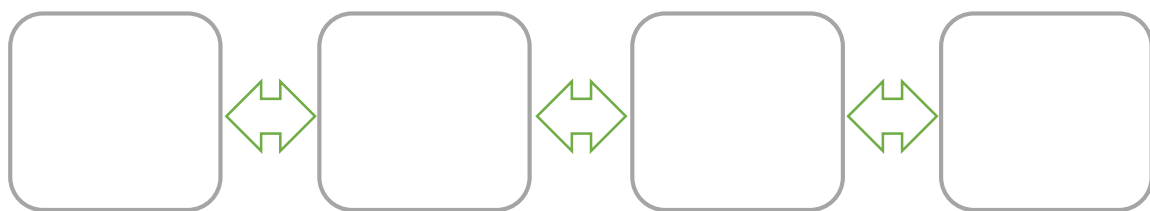
---



## 地域づくりのプロセスを大切に、地域コーディネーターの育成

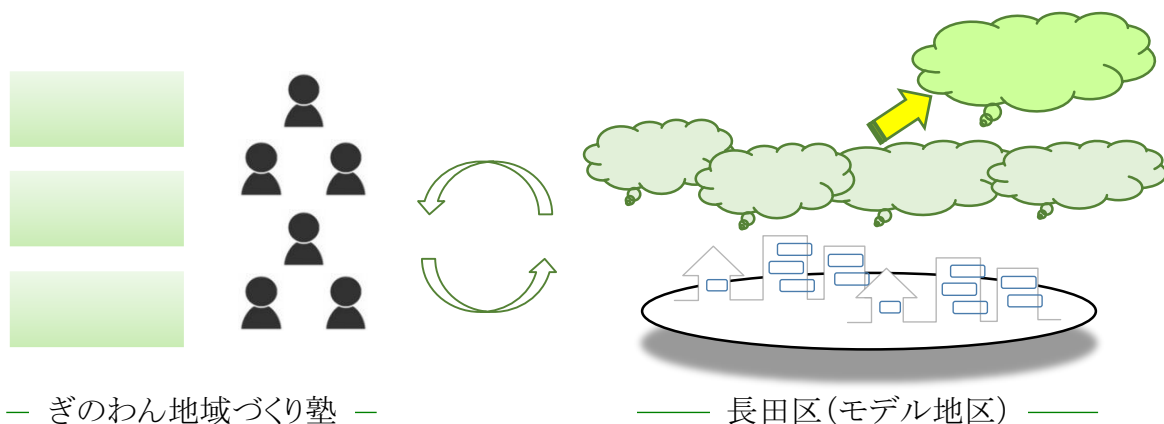
これからの宜野湾市においては、様々な分野で一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題が増えてくると考えられます。そのため、地域住民と共に地域課題を共有し、互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、複雑化した地域課題を解決する「協働による地域づくり」が求められています。

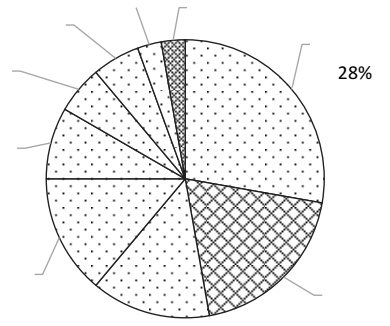
そのためには、地域のつなぎ手（コーディネーター）人材を育成する必要があります。そこで、宜野湾市では、協働による地域づくりについて理解し、地域が主体となった地域づくりをサポートする地域コーディネーターの力を磨き合う場として、平成28年度地域コーディネーター養成講座「ぎのわん地域づくり塾」（主催：宜野湾市、宜野湾市社会福祉協議会）を開催しました。



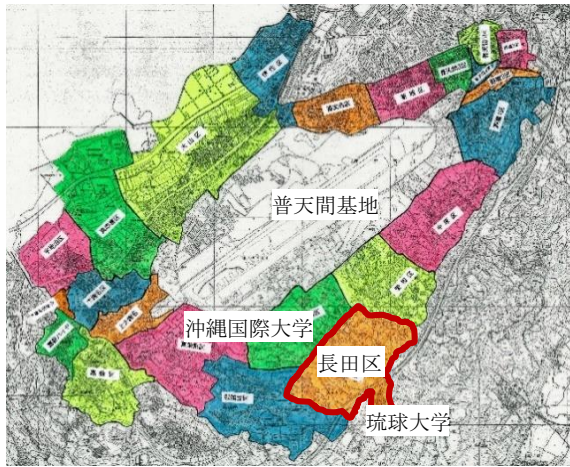
ぎのわん地域づくり塾では、講義、フィールドワーク、ゼミを通じて、モデル地区（宜野湾市長田区）の地域課題をとらえ、解決のための企画提案を行う過程から、地域コーディネーターを育成します。

地域づくりのプロセスを大切にし、  
地域内外の多様な人や組織、力、資源をつなぎ合わせて、  
「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、  
解決の動きをつくりだす人材





- :自治会の境界線(スキマ)、ゴミの不法投棄、空家の防犯、ペットのフン・鳴き声等
- :誰にも相談できない(孤立化)、見えてこない等
- :一人暮らし高齢者、高齢者の買い物、自治会活動へ参加したくても参加できない等
- :新・保育園周辺での交通の不安、登下校時の子ども達が危険、道が暗く怖い等



長田区は、1963年に長田区と志真志区(6割)が合併して、その後、1999年に長田小学校が開校し、宜野湾市内で一番世帯数、人口が多い地域となりました。

琉球大学、沖縄国際大学が近接する影響もあり、19才～65才が人口の約6割を占め、人口に対して、比較的高齢者は少ないのが現状です。

自治会加入世帯は、975世帯(加入率:23.0%)です。

	1963年		2016年	
世帯数	176世帯	➡	4,234世帯	24倍
人口	1,073名	➡	9,540名	9倍

塾生が、長田区の4つの困りごとから7チームに分かれ、チームごとに解決したい課題を設定し、解決に向けた企画提案を考え、平成28年10月8日(土)に最終発表を行いました。

( )  
管理者がハッキリとしていなく、草が伸び、ポイ捨てや違法駐車も多いスージグラーを、気持ちよく歩ける道になるようにしていきたい。その為、「皆がワクワク楽しいと思える地域づくり」を理念に、住民自らの問題意識を掘り起こし、解決策を一緒に考える場としてユンタク会を開催することを提案しました。



子ども食堂により、経済的に食事が不十分な子どもだけでなく、皆で食べることで孤食を防ぎながら、日ごろから関わりを持ち、支援が必要な子や親への変化に気づいたり、相談できる関係性の構築を目指します。そして、地域の子どもは地域で育てることを念頭に、地域で協力していくことを提案しました。



高齢に伴い、今までの居場所へ足が遠のいてしまう現状があり、地域での孤立を防ぐため、誰でも気軽に来れる居場所作りを行います。そして、人が繋がり、誰でも気軽にできる地域づくりを進める為に、テーマに合わせたプロジェクトチームを結成することを提案しました。







看板設置の流れを作って頂いたので、この流れで他の場所にも設置していけると思う。チームあ・ん・ぜ・んに生まれた愛が、地域にも広がっていけるようにしたいと思いました。

長田区に50年住んで、民生委員として12年活動していても、気づかなかったことを発表頂いて嬉しいです。



長田区は他の地区に比べて困窮世帯は少ないが、長田区民がもっと協力していかないといけないと思いました。

高齢者の買い物は、スーパーまでの道が悪く、移動販売の提案など、とても良いことだと思いました。



集まりに参加する男性は少なく、男性の方も気軽に、参加できるようになれば良いと思いました。



取り上げて頂いた道は孫と歩くことが多い道だが、ガジャンが多い、ジャカジャカしてる、怖いとっていて、取り上げて頂いてとっても嬉しいです。有難うございました。

高齢化率も上がってきて、近所付き合いはますます難しい時代になっている中、このような企画を頑張ってくれた。皆で理解し合う地域づくりをして、繋がりを作っていこうと思う。



## 1

仕事を退職した後の居場所がなく、人と関わりたいが一步踏み出すことができない方々の孤立を防止していきたい。その為に、趣味を一緒に行う方、特技を教えたい方、習いたい方をつなげることで、人との交流・居場所づくりをして、健康維持につなげることを提案しました。



## 1

住居が公民館から遠くても気軽に集える場所として、ゆんたくサロンを行っていきたい。場所は一人暮らしのお家、空き家、お庭等で、一つの居場所を2~3人チームにして、自治会と定期的な意見交換会することで、運営メンバーの負担を減らすことを提案しました。



日常生活を送るうえで必要な買い物の実態を調査しました。家族や近所の協力があるため、予想していたよりも買い物に困っている人はいないのが実態でありました。しかし、起伏が激しく、狭い道があるため、将来的に高齢者が増加した場合は、不安があることが分りました。



スクールゾーンは危険性が高い区域として認識されており、地域を支える団体が、共に楽しく取り組む交通安全の基盤づくりをします。地域を支える団体（キーパーソン）をつなげて、連名による交通安全看板製作/設置・標語コンクール等を提案しました。



1

73

日 時 平成28年7月11日(月)19:00-21:00  
会 場 宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

講師 高崎経済大学 櫻井常矢 教授

地域コーディネーター養成講座「ぎのわん地域づくり塾」がいよいよスタート！塾長(佐喜眞淳市長)の挨拶から始まり、櫻井常矢教授をお招きして、「協働による地域づくりとは何か？」について講義頂きました。



2

37

日 時 平成28年7月25日(月)19:00-21:00  
会 場 宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

講師 長田区自治会長 富濱宗俊 氏

長田区の地域の現状や自治会の取り組み、地域課題について自治会長にお話しいただきました。自治会長より提示された4つの地域課題ごとに、塾生それぞれの関心でグループに分かれ、話し合いました。



3

32

日 時 平成28年8月8日(月)19:00-21:00  
会 場 宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

前回分かれた環境、高齢者、道路・交通、困窮グループからさらに7つのチームに分かれました。各チームで、自分達が解決したい長田区の困りごとについて、現象(目に見える困りごと)と原因(引き起こすもと)を付箋に書き出しながら、共有する時間をもちました。



4

27

日 時 平成28年8月22日(月)19:00-21:00  
会 場 宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

前回からの2週間で得た情報をチーム内で共有し、前回チームで出した様々な何とかしたい「現象」(困りごと)から、チームで取り組む一つを選びました。今後取り組む長田区の地域課題の設定に向けて動き出しました。



5

27

12

日 時 平成28年9月3日(土)10:00-15:00  
会 場 長田区公民館、男女共同参画支援センターふくふく

長田区公民館にて、長田区自治会、民生委員・児童委員、長田小PTA・子ども会、婦人会、かりゆし会の皆さんへインタビューさせていただきました。地域で暮らす方だから見えていることを教えていただき、午後からは、長田区内をまちあるきしました。



6

27

日 時 平成28年9月17日(土)10:00-15:00  
会 場 宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

7

長田区の地域課題を掘り下げ、課題解決のための企画づくりを各チームで進めました。長田区に貢献する発表を目指し、中間発表を行い、お互いの発表に対して意見を交わしました。



7

34

/ 11 /

13

日 時 平成28年10月8日(土)10:00-16:00  
会 場 長田区公民館

長田区をフィールドに、3か月間学ばせていただいた成果を、長田区の皆さんに向けて、7チームが発表しました。各発表後には、長田区の方からコメントを頂いたり、付箋紙に書き出して頂いたり、地域課題を共有する場となりました。





長田区がモデル地区ということでの受講希望者が来ていただけるのか不安もありました。しかし、どれだけの住民意識があるのか、把握しきれていない情報の発掘、地域ニーズは何か、本当の地域課題とは何か、課題解決の緊急性や必要性の核心部分を確認できるのではと期待していました。そして、地域づくり塾が始まり、塾生から地域活動に取り組む方へのインタビューを通して、地域づくりネットワークを構築するきっかけ、新たな気づき、自分たちの活動を再確認するような感覚と期待を持つことができました。

長田区でも地域住民が意見や話合う場があって、そ

のなかで地域づくりのヒントとして課題集約を活用する場所づくりに努めています。その課題を一人の悩み事なのか、地域全体の課題なのかを、地域を元気にしたい方や、関係する団体組織と一緒に関係性を超えてお互いに課題解決に向けて取り組む課題解決型の実働部が必要だと感じております。その場には、地域コーディネーターの知識がある塾生のような存在が重要になってくると感じております。

また、多くの方々が、ボランティア団体の活動や、地域に向きあい地域の発展に関わる方の活動には気づいていないと思います。これからの宜野湾市はそういった小さな支え合いの場や取り組む人を知ることが重要だと感じます。実はだれかが支え合いの中心になっているということ、それを紡ぐ存在として地域コーディネーター育成が住民主体のまちづくりに繋がっていくのではと期待しております。

この塾が多年に渡り続いていき、多世代に渡って参加してもらうことで地域協働と開放性のある開かれたまちづくりに発展して行くものと考えます。



宜野湾市で初のチャレンジとなる地域づくり塾でしたが、とても充実した内容と雰囲気の中で終えることができました。その要因の一つは、長田区自治会という具体的なフィールドを通して講座を実施できたことです。受講生は本物の地域課題に向き合い、その解決に向けた実践的な提案ができる環境を得ることができました。それにも増して貴重な経験となったのは、実は多くの人びとによる日々の努力によって地域の暮らし

が支えられていることを知ったことです。最終回の成果発表会における受講生と地元長田区の皆さんとの率直なやり取りは、お互いにとって大変意義深いものでした。そしてもう一つの要因は、受講生の皆さん一人ひとりの熱意にあったと思います。実地での調査を重視した講座でしたので、時間の調整などの苦労も多かったと思いますが、各グループが最後までやり遂げたことは本当に素晴らしかったと思います。

さて、講座の成果はこれからが重要です。高齢化・人口減少時代は、まさに丁寧なひとづくりを核とした地域の課題解決力が求められます。受講生が新たな‘チーム’となって、地域・市民の話し合いの場を創造しながら、人びとに気づきや勇気を与える地域づくりの促進役として大いに活躍されることを心から期待しています。





宜野湾市で初の取り組みとなります、地域コーディネーター養成講座2016「ぎのわん地域づくり塾」が開講され、地域の課題解決のための主体と主体をつなぐ貴重な人材を育成する機会を創れたことを大変うれしく思います。

本市では「協働によるまちづくり」の考え方や具体的な取り組みについてとりまとめ、推し進めているところがございます。

この「協働」という手法を用いて、1つの組織、団体では対応できない課題を、市民、自治会、NPO、ボランティア団体、市民団体、企業、教育機関、行政などが、お互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、地域課題の解決に向けてより進んでいくものと考えています。

高齢者の増加に伴う介護、子どもの貧困・居場所づくり、災害・防災の対応などの様々な問題がある中、この「ぎのわん地域づくり塾」で学んだ知識やコーディネートのスキルは、地域の課題解決の実践の場で、活躍できるものになっていると思います。また、修了生による地域コーディネーターとしての活躍が徐々に全域に広がることで、本市の市民協働推進基本指針の理念でもある「誇りと愛着の育まれるまちづくり」が実現され、住んで良かったと思えるまちづくりにつながることを期待してやみません。



本会では、市民一人ひとりの個性や考え方が尊重され幸せに暮らしていけるよう、住民相互の支え合いをおし、「人を支える喜び」「人に支えられる喜び」を住民自らが実感できるまちづくりの実現に向け、地域福祉活動を推進しており、「地域支え合い活動委員会」や「ミニデイサービス」等を実施し、地域で支え合う仕組みづくりに取り組んでいます。しかし、これらの取り組みは、「活動に参加する方は同じ顔ぶれ」、「活動す

る方の高齢化」「働き盛り等の若い世代が参加できない」等担い手の不足が課題であり、地域活動の担い手の発掘や育成、その発掘した担い手を地域へと「つなぐ」地域コーディネーターの活躍が期待されています。

「ぎのわん地域づくり塾」では、地域コーディネーター及び活動実践者の育成において、地域と新たな関わりや、塾生間等のネットワークの構築、また、地域課題の発見や解決に向けたアプローチをとおし、塾生が地域に関わる意識を大切に組み合わせたことは大いに評価でき、今後の地域での活動に期待しているところです。

今後も、「地域づくり塾」をとおし、塾生が、地域に関わる「ひとりの住民」としての意識を高め、回を重ねながら塾生のネットワークを形成し、地域と様々な分野の方々を巻き込みながら、次世代につながる地域づくりと共に地域福祉の推進に向け取り組んでまいります。